

「京都市病院事業改革プラン」（平成21年3月策定）に掲げた考え方

1 基本方針

- (1) 入院・外来機能等については、中期的には現状を基本としつつ、地域の医療ニーズに見合った機能の確保に努める。
- (2) 今後2年間の稼働状況の推移等により、一定の再編・集約にも取り組む。
- (3) 平成23年度決算からの単年度収支黒字基調への転換を目指す。

2 自治体病院としての政策医療の担保

- (1) 地域で唯一の救急告示病院として、引き続き一次救急に取り組む。
- (2) 二次救急や高度医療については、市立病院等との機能分担を図る。

3 地域の医療ニーズに対応した診療体制の確保

介護保険適用療養病床の廃止後の受け皿については、今後2年間における病床稼働率等の推移や報酬改定の動向を見極めた上で判断する。

<改革プランにおいて想定されている受け皿確保の方法>

現状維持	介護保険適用の病床を新型老健に転換
医療療養シフト	介護保険適用の病床を医療保険適用の療養病床に転換
新型老健シフト	すべての療養病床を新型老健に転換

京北病院における医師確保の状況

1 常勤医師数の推移

～平成16年度導入の新臨床研修医制度の影響等により、医師確保が困難な状況～

() 内は、常勤的勤務が可能な非常勤医師数

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
内科	3名	2名	1名	—	2名	3名	1名
外科	2名	2名	2名	2名	2名	1名	1名
整形外科	1名	—	—	—	(1名)	—	—
計	6名	4名	3名	2名	4名	4名	2名

2 市立京北病院医師担当表 (平成22年4月1日現在)

曜日		月	火	水	木	金
診療科等	内科①	藤井	正木 (市立)	松村 (京大)	山田 (府立)	藤井
	内科②	消化器 担当医(市立)		西方 (市立)	循環器 (京大)	正木 (市立)
	内視鏡	内科② と同じ	西方 (市立)	内科② と同じ		
	外科	担当医 (京大)	由良	担当医 (京大)	担当医 (市立)	由良
	整形外科		金光 (午後予約診)		担当医 (府立)	担当医 (府立)
	小児科	和田/宇野 (第二日赤)			大前/長谷川 (第二日赤)	
	泌尿器科			山田 (府立)		
	眼科				奥村 (府立)	
診療所	診療所名	山国	宇津	山国	細野	黒田
	担当	担当医(市立)	藤井	西方(市立)	担当医(市立)	担当医(市立)
救急	内科 午前/午後	市立/ 担当医(市立)	藤井/西方	西方/松村	藤井/山田	担当医(市立) /担当医(市立)
	外科 午前/午後	由良/ 担当医(京大)	由良/由良	由良/ 担当医(京大)	由良/ 担当医(市立)	由良/ 担当医(府立)
当直		担当医	西方(市立)	外科担当医 (市立)	藤井	担当医

- (注) (市立) = 京都市立病院の所属医師
 (京大) = 京都大学附属病院の所属医師
 (府立) = 京都府立医科大学附属病院の所属医師
 (第二日赤) = 京都第二赤十字病院の所属医師
 担当医(市立) = 京都市立病院の医師(不定)が診察
 担当医(京大) = 京都大学附属病院の医師(不定)が診察
 担当医(府立) = 京都府立医科大学附属病院の医師(不定)が診察

京北地域における人口の推移，高齢化率，要介護等認定者の状況
 ～全市平均と比較して高齢化率，要介護等認定者の率が高い状況～

1 各年4月1日現在の住民基本台帳人口

総人口は減少しているが，65歳以上の人口は横ばい ⇒ 高齢化率の上昇

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
総人口	6,744人	6,736人	6,544人	6,450人	6,326人	6,212人
うち65歳以上	2,100人	2,107人	2,108人	2,137人	2,144人	2,125人
高齢化率	31.1%	31.3%	32.2%	33.1%	33.9%	34.2%
全 市	19.7%	20.2%	20.8%	21.5%	22.2%	22.8%

※平成16年度は10月1日現在の数値。

2 介護保険被保険者総数に占める要支援・要介護認定者の割合

京北地域は，全市，右京区に比べ，要支援，要介護認定者の割合が高い。

年 度	区 分	京 北	右京区	全 市
21年2月	要介護認定率	20.5%	15.7%	17.8%
	要介護認定者数	442人	6,651人	57,548人
	被保険者数	2,153人	42,364人	324,044人
22年2月	要介護認定率	22.1%	16.3%	18.3%
	要介護認定者数	478人	7,052人	60,494人
	被保険者数	2,162人	43,289人	330,098人

京北病院における業務実績

1 病床利用率, 外来患者数

(1) 入院

一般病床の利用率は低いが、療養病床の利用率は80%程度

区 分		18年度決算	19年度決算	20年度決算	21年度見込
一般病床	稼働病床数	46床	46床	41床	41床
	稼働病床利用率	62.4%	58.7%	66.9%	63.6%
	延べ患者数	10,469人	9,879人	10,216人	9,520人
	1日平均患者数	29人	27人	28人	26人
療養病床	稼働病床数	21床	21床	26床	26床
	稼働病床利用率	83.4%	74.3%	78.6%	81.0%
	延べ患者数	6,391人	5,712人	7,217人	7,683人
	1日平均患者数	18人	16人	20人	21人
延べ患者数合計		16,860人	15,591人	17,433人	17,203人
1日平均患者数合計		46人	43人	48人	47人

(2) 外来

外来患者数は、減少傾向が続いている。

区 分	18年度決算	19年度決算	20年度決算	21年度見込
延べ患者数	38,840人	36,764人	34,455人	32,523人
1日平均患者数	159人	150人	142人	134人

2 救急患者受入数

～救急対応については年度による大きな変化はない状況～

(単位：人)

	救急車		救急車以外		合 計	
		うち入院		うち入院		うち入院
平成16年度	183	106	2,060	84	2,243	190
平成17年度	161	68	2,085	127	2,246	195
平成18年度	183	80	2,270	159	2,453	239
平成19年度	219	86	2,042	151	2,261	237
平成20年度	227	115	2,046	49	2,273	164
平成21年度	175	59	1,941	108	2,116	167

※ ヘリコプターによる搬送件数 (平成20年1月～平成20年12月) 29回
(平成21年1月～平成21年12月) 24回

3 入院患者の医療区分、要介護度の割合

～両病床の患者ともに、介護の必要性はあるものの医療の必要度は低い状況～

(単位：%)

区 分		医療保険適用療養病床			介護保険適用療養病床		
		20年7月	21年7月	22年3月	20年7月	21年7月	22年3月
医療区分	区分1(低)	23.9	67.6	63.2	90.7	91.7	86.1
	区分2(中)	63.1	26.3	24.7	9.3	8.3	13.9
	区分3(高)	13.0	6.1	12.1	0	0	0
	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
要介護度	非該当	0	0	5.2	—	—	—
	介護1	5.1	0	18.5	2.0	0	5.4
	介護2	—	33.3	28.5	20.6	25.0	4.1
	介護3	7.3	16.7	21.3	17.3	16.7	29.3
	介護4	14.3	25.0	0	32.2	25.0	32.2
	介護5	73.3	25.0	26.5	27.9	33.3	29.0
	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

医療区分中の「(低)」、「(中)」、「(高)」は、医療の必要の程度を示す。

4 住所地別入院、外来患者数(平成22年3月実績)

～入院、外来とも患者の大多数は、京北に居住している～

	入 院		外 来		合 計	
	延べ患者数(人)	構成比(%)	延べ患者数(人)	構成比(%)	延べ患者数(人)	構成比(%)
北 区			7	0.5%	7	0.5%
上京区			1	0.1%	1	0.1%
左京区			6	0.4%	6	0.4%
中京区			4	0.3%	4	0.3%
山科区			5	0.4%	5	0.4%
下京区			2	0.1%	2	0.1%
右京区(京北内)	65	92.9%	1,208	86.9%	1,273	87.2%
右京区(京北外)			5	0.4%	5	0.3%
西京区			6	0.4%	6	0.4%
京都市計	65	92.9%	1,244	89.5%	1,309	89.7%
南丹市美山町	4		122	8.8%	126	8.6%
南丹市日吉町			14	1.0%	14	0.9%
南丹市園部町	1		2	0.1%	3	0.2%
船井郡京丹波町			1	0.1%	1	0.1%
長岡京市			1	0.1%	1	0.1%
向日市			1	0.1%	1	0.1%
綾部市			1	0.1%	1	0.1%
宇治市			2	0.1%	2	0.1%
京都府内計	5	7.1%	144	10.4%	149	10.2%
京都府外計			2	0.1%	2	0.1%
合計	70	100.0%	1,390	100.0%	1,460	100.0%

5 年齢階層別，男女別，外来・入院患者数（平成22年3月実績）
 ～外来，入院とも70歳以上の患者が圧倒的に多い～

(1) 外来

年齢階層	男		女		合計	
	延患者数	割合	延患者数	割合	延患者数	割合
0～9歳	52	3.9%	49	3.2%	101	3.5%
10～19歳	28	2.1%	13	0.8%	41	1.4%
20～29歳	11	0.8%	8	0.5%	19	0.7%
30～39歳	55	4.1%	50	3.3%	105	3.7%
40～49歳	57	4.3%	58	3.8%	115	4.0%
50～59歳	73	5.5%	67	4.4%	140	4.9%
60～64歳	54	4.1%	63	4.1%	117	4.1%
65～69歳	92	6.9%	110	7.2%	202	7.1%
70歳以上	908	68.3%	1,117	72.8%	2,025	70.7%
合計	1,330	100.0%	1,535	100.0%	2,865	100.0%
平均年齢	69.3		72.5		71.0	

(2) 入院（介護療養病床を除く）

年齢階層	男		女		合計	
	延患者数	割合	延患者数	割合	延患者数	割合
40～49歳			19	3.6%	19	1.7%
50～59歳	7	1.3%	15	2.8%	22	2.0%
60～64歳			4	0.8%	4	0.4%
65～69歳	37	6.7%	31	5.8%	68	6.3%
70歳以上	511	92.1%	462	87.0%	973	89.6%
合計	555	100.0%	531	100.0%	1,086	100.0%
平均年齢	81.6		83.1		82.3	

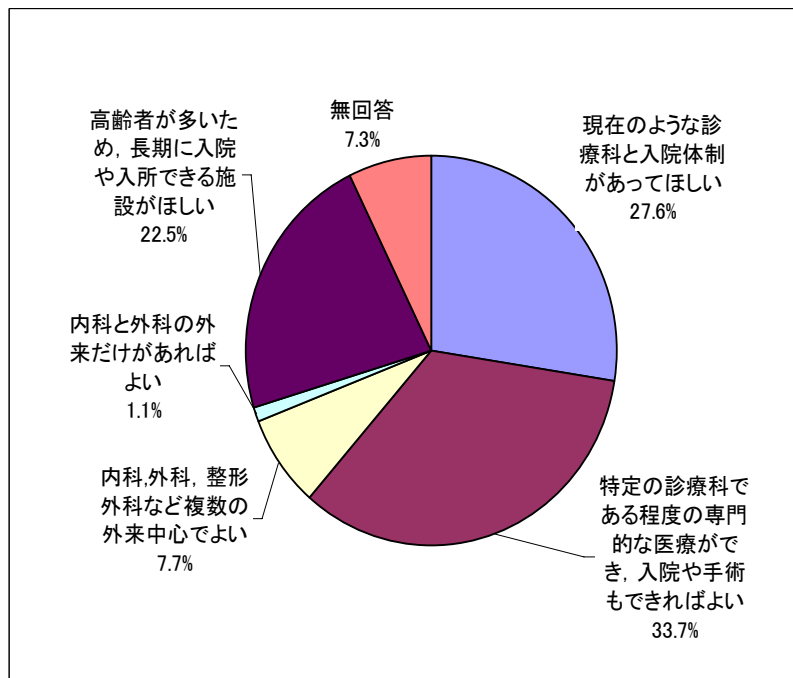
(3) 入院（介護療養病床）

年齢階層	男		女		合計	
	延患者数	割合	延患者数	割合	延患者数	割合
75～79歳			29	12.8%	29	9.1%
80～84歳	31	34.1%	57	25.1%	88	27.7%
85～89歳	31	34.1%	77	33.9%	108	34.0%
90～94歳			60	26.4%	60	18.9%
95～99歳			4	1.8%	4	1.3%
100以上	29	31.9%			29	9.1%
合計	91	100.0%	227	100.0%	318	100.0%
平均年齢	88.7		86.2		86.9	

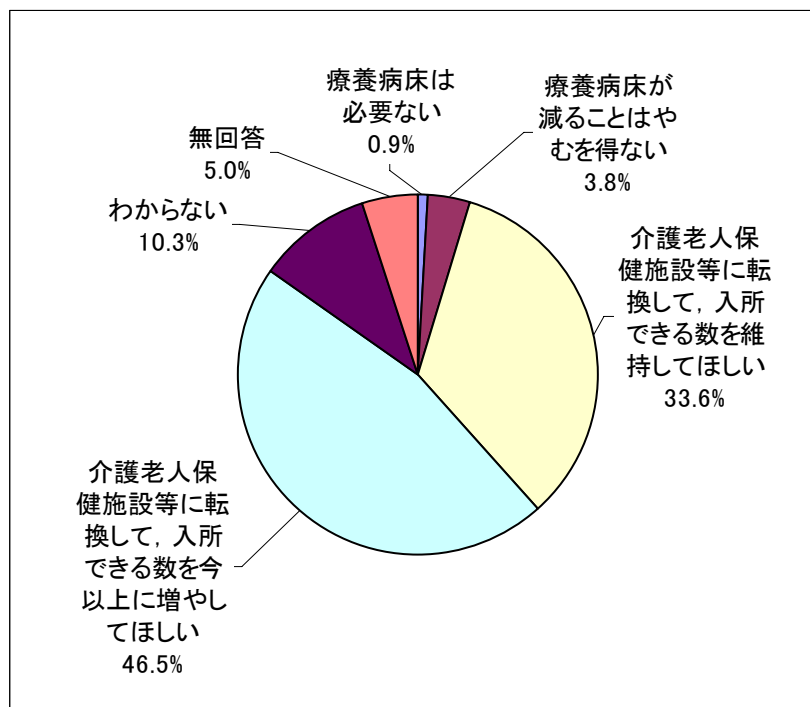
住民意識調査における京北病院に期待する医療

「京北地域の医療や健康に関するアンケート」調査結果(平成19年10月実施)の状況(抜粋)
 →配布部数 2,257 世帯, 回収部数 1,151 世帯, 回収率 51.0%

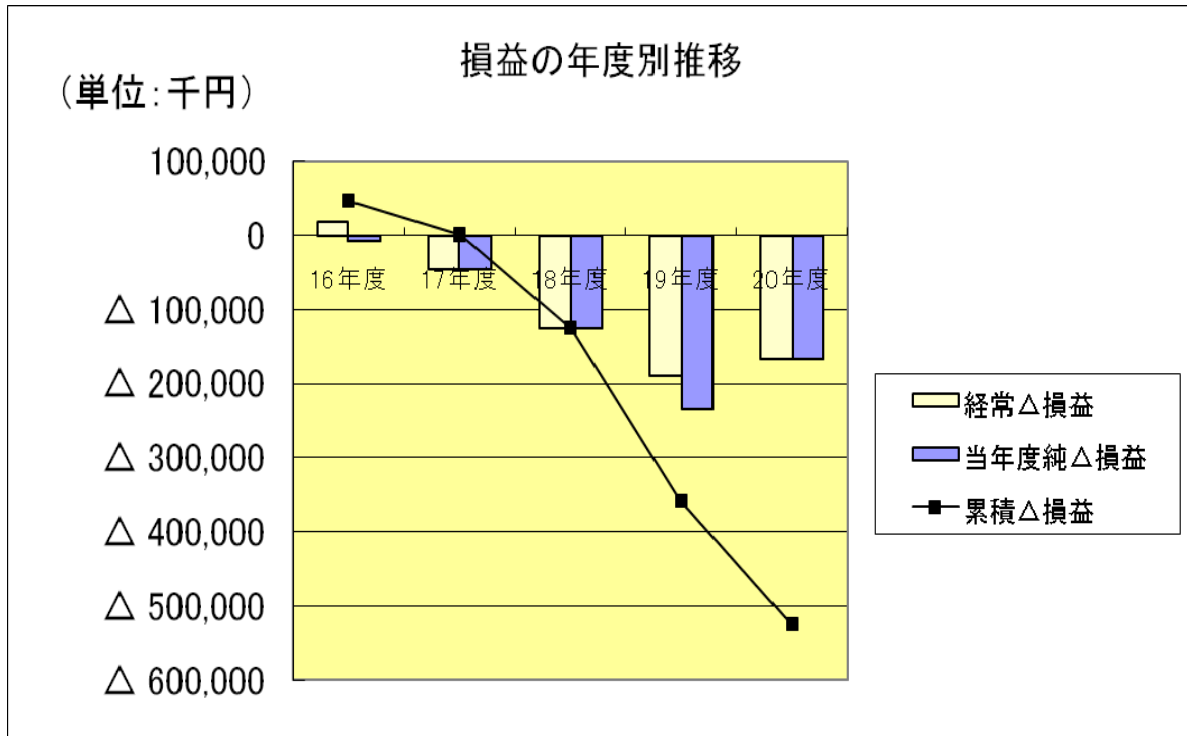
1 住民意識調査における京北病院に期待する医療



2 住民意識調査における京北病院の長期に入院できるベッドへの期待
 ~介護老人保健施設等への転換を支持する方は 80.1%~



損益の年度別推移



平成 16 年度及び平成 19 年度においては、特別損失を計上している。

施設ごとの対象者，人員基準等の比較

施設区分 項目		医療保険適用施設			介護保険適用施設		
		一般病床	亜急性期病床	医療療養病床	介護療養病床	介護老人保健施設	
対象者		急性期の治療を必要とする患者	急性期治療を経過した患者，在宅・介護施設からの患者で症状が急性増悪した患者	慢性期の状態にあって入院医療を必要とする患者	慢性期の状態にあって施設での介護を必要とし，医療ケアも必要な患者	病状安定期にあり，入院治療をする必要はないが，リハビリテーションや看護・介護を必要とする要介護者	
人員基準	看護	10 : 1 (※)	10 : 1 (※) (当該亜急性期病床を含む一般病床と同じ。ただし，13 : 1以上)	25 : 1	患者6人に1人	} 入所者3人に対し，1人(看護師は総数の2/7以上)	
	介護			25 : 1			患者5人に1人
在院日数要件		21日以内	90日以内	なし	なし		なし
報酬(診療報酬=1点10円，介護報酬=1単位10.45円(特甲地))		1,300点	2,050点 (手術，リハビリ等以外の診療に係る費用は包括)	871点～ 1,361点(ADL区分，医療区分により異なる。検査，投薬，注射，処置等を包括)	734単位～ 1,201単位 (要介護度により異なる)		814単位～ 1,164単位 (要介護度により異なる)

※ 現在の京北病院の配置基準